

テーマごとの作品と、それぞれのコンセプトの紹介

※すべての作品のコンセプトは、応募いただいたものを基にして、市で要約しました

60周年記念ロゴマーク



七重塔、湧き水、野菜、新幹線、ツインタワーなど国分寺の名所、名物を、あぶみ瓦を囲んでつなぎ、市の鳥カワセミをイメージした色を使用しました。国分寺市を形作る大切なものとしてきたからこそその60周年、を表しています。

全てのピースが大切な存在であり、仲間が集うことで新しい世界を私たちにを見せてくれる、そんなジグソーパズルをメインモチーフとして採用し、60thの文字を大きくカラフルに、目立つようにデザインしました。



60の背景に国分寺の木(けやき)の葉、花(さつき)、鳥(カワセミ)を入れて構成しました。60周年を祝うように賑やかな画面にしました。学生の頃、国分寺に住んでいて、環境の素晴らしさが今も心に残っています。



60周年記念キャッチフレーズ

1 悠久の時間が紡いだ
まちの息吹が聞こえる。

私たちは、いにしえの人々がこの地で営んだ生活の舞台を受け継ぎ、長い歴史の一部を担って生きているということに思いを寄せ、この息遣いを絶やすことのないよう大切に、寄り添っていきたく思います。

2 この街が好き、ずーっと一緒。
(祝国分寺市制60周年)

理屈を通り越して感覚的に居心地のいい街です。東京都のほぼ中央に位置していて、子育てから暮らしやすさなどの多くの点からも、如何に「住みよい街」、「暮らしよい街」であるかが伺えます。

3 60年 じぶん輝くこくぶんじ

国分寺市のイメージキャラクター、ぶんじほたるホッチとともに市制施行60周年を迎えた国分寺市はさらに輝き前に進みますということを「国分寺」と「自分」を敢えて平仮名としました。

マンホール蓋(鉄道のまち こくぶんじ)



新幹線/鉄道のまち・国分寺らしく、新幹線のメインビジュアルと共に、自然溢れる背景、都会でありながら、星空が見える澄んだ環境をイメージして制作しました。

国分寺市の地図に対し、4つの路線から電車が入る様子を示し、新幹線「ひかり」と「光町」の「光」を表現しました。また、武蔵国分寺の「七重塔」から光がでるようにすることで、発祥から現在までの歩みを示しました。



国分寺市に通っている路線が七重塔から飛び出しているようなデザインにしました。勢いのある構図にして、僕が大人になった時に国分寺市がもっと勢いのある明るい街である事を願ってこの作品を作りました。



マンホール蓋(国分寺三百年野菜「こくベジ」)



国分寺市で生産される野菜の歴史や豊かさを「だいちの味がぎゅっとつまった」イメージでマンホールの円形いっぱいに入れました。

黒く濃く豊かでふかふかな土の色や、青々と育つ野菜が整然と一列に並ぶ様、そんな大切な景色を、私なりのアングルでとらえてまとめてみました。豊かな土の象徴としてもぐらをアイキャッチ的にあしらいました。



デザインは、豊かな自然と農作物を表現しており、国分寺の歴史と自然を感じさせる風景が描かれています。中心には伝統的な家屋が配置され、背後には七重塔がそびえ、前面には収穫された様々な野菜を描きました。